

## 経済レポート

## グラフで見る東海経済(2016年7月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

## 【今月の景気判断】

東海経済は、横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。生産は2月に自動車工場の生産停止の影響で大幅に減少した後、3月に増加したが、4月に熊本地震の影響もあって減少となり、均してみると弱含んでいる。輸出は、5月の実質輸出が2ヶ月ぶりに増加したが、均してみると弱含みとなっている。雇用は、失業率、就業者数、求人倍率など、総じて横ばい圏で推移している。賃金は横ばい圏で推移している。個人消費は、物価の落ち着きによる下支え効果もあって横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。設備投資は、増加が一服している。住宅着工、公共投資は、横ばい圏で推移している。先行きについては、生産は6月以降自動車関連において挽回生産が見込まれ、生産全体を均してみると横ばい圏での推移が見込まれる。輸出は、新興国経済減速の影響もあって横ばい圏での推移が見込まれる。英国のEU離脱問題は企業活動の先行きの懸念材料ではあるが、生産、輸出など実体経済に与える影響は限定的であると考えられる。消費は、所得環境が変わらない中、横ばい圏での推移が見込まれる。設備投資、公共投資も横ばい圏の推移が見込まれる。東海経済は、横ばい圏での推移が見込まれる。

## 【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↘		↗
個人消費	→		→	輸入	↘		→
住宅投資	→		→	生産	↘		→
設備投資	→		→	雇用	→		→
公共投資	→		→	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャド部分分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

## 【当面の注目材料】

- ・世界景気～イギリスのEU離脱問題、中国等新興国経済の減速懸念、米国の金融政策
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の挽回生産の動向、伊勢志摩サミット開催後のインバウンド消費
- ・政策～消費増税先延ばしの財政への影響、マイナス金利導入の影響
- ・家計～賃金の改善状況と消費行動への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ[「グラフで見る東海経済」の見方]参照

## 【各項目のヘッドライン】

項目	6月のコメント	7月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	4~5
2. 生産	弱含んでいる	弱含んでいる	6~8
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	8~9
4. 賃金	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	増加が一服している	増加が一服している	15~16
8. 公共投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	17
9. 輸出入	輸出、輸入ともに弱含み	輸出、輸入ともに弱含み	18~19
10. 物価	緩やかに低下	低下している	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(\*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

## 【前月からの変更点】

## 10. 物価

5月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比 - 0.6%と3ヶ月連続で低下し、下落幅が拡大している。

以下、景気判断の根拠となる経済指標の推移を参考資料として添付する。

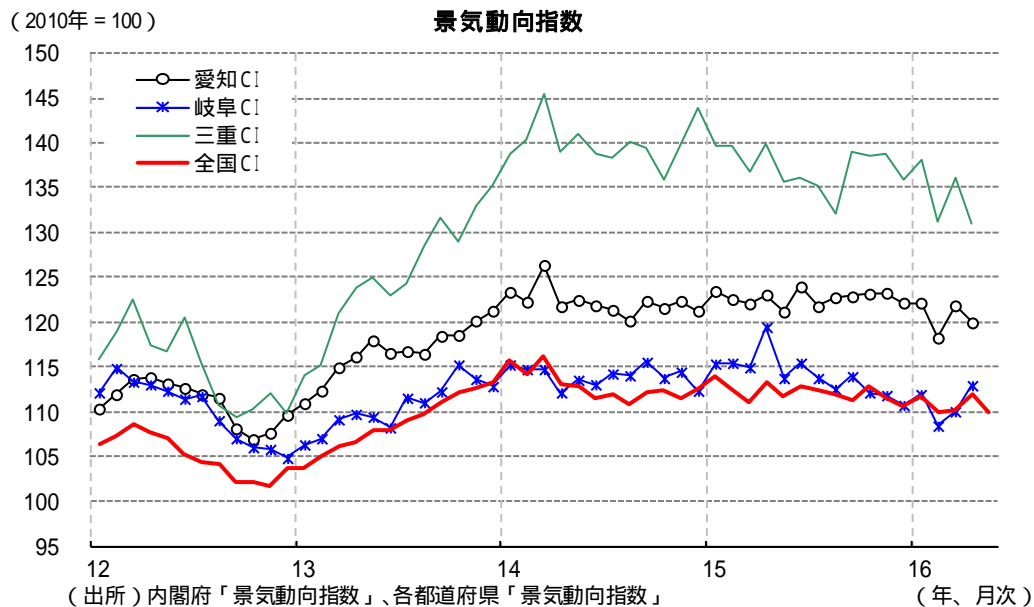
## 【主要経済指標の推移】

経済指標		15 4-6	15 7-9	15 10-12	16 1-3	16 4-6	16 1	16 2	16 3	16 4	16 5	16 6
景気全般	景気動向指数 愛知( C I、一致指数)	122.8	122.5	122.9	120.8		122.2	118.3	121.9	120.0		
	岐阜( C I、一致指数)	116.3	113.5	111.6	110.2		112.0	108.5	110.1	113.0		
	三重( C I、一致指数)	137.2	135.4	137.8	135.2		138.2	131.3	136.1	131.1		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI)	52.0	48.9	48.5	46.8	42.4	47.6	45.6	47.1	44.7	42.2	40.3
	(先行判断DI)	53.9	49.2	49.6	48.4	44.5	50.4	48.6	46.3	44.8	48.2	40.5
	短観業況判断DI(大企業製造業)	13	8	9	1	3	6	<9月予想>				
(中小企業製造業)	3	4	0	-3	-7	-12	<9月予想>					
(非製造業)	9	13	16	11	6	2	<9月予想>					
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	1.1	1.0	1.0	0.5								
非製造業(兆円)	0.5	0.4	0.3	0.2								
生産	鉱工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	-1.2	-0.6	3.2	-4.7		3.9	-13.9	8.7	-1.5	-0.1	
	鉱工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	-0.8	-0.9	3.3	-4.5		3.2	-10.9	4.3	1.0	-0.9	
	鉱工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-1.1	0.5	-1.3	-0.9		0.3	0.4	0.0	-0.3	4.4	
	鉱工業生産 輸送機械( " )	-1.7	0.6	4.5	-4.5		2.9	-18.4	16.9	-3.4	2.9	
	はん用・生産用・業務用機械( " )	-2.4	-2.9	1.2	-5.4		1.9	-5.3	0.6	1.4	-2.7	
	電子部品・デバイス工業( " )	-4.8	-3.7	11.0	-7.1		15.9	-28.8	7.3	-2.5	-3.4	
	プラスチック製品工業( " )	0.5	-0.2	6.8	-7.4		-4.0	-8.0	5.3	1.0	-0.7	
	化学( " )	-1.2	2.0	-6.8	-2.7		7.2	-6.8	-2.7	10.2	0.0	
	電気機械( " )	5.6	1.3	0.1	0.1		3.6	-4.5	0.8	4.6	-3.4	
	鉄鋼( " )	-2.3	-0.2	0.2	-6.4		-2.7	-6.9	6.7	5.4	-0.3	
金属工作機械受注 総受注(億円)	394.4	415.6	366.5	346.2		335.7	305.3	397.5	353.3	354.1		
国内受注(億円)	155.1	173.5	128.7	116.4		107.1	99.6	142.6	127.4	113.3		
海外受注(億円)	239.3	242.1	237.8	229.7		228.6	205.7	254.8	225.9	240.9		
雇用	完全失業率(原数値、%)	2.8	2.7	2.6	2.8							
	就業者数(原数値、万人)	775	776	770	784							
	常用雇用指数 愛知	101.7	102.0	101.7	100.8		101.0	100.7	100.7	101.6		
	岐阜	99.7	100.7	101.1	101.5		101.1	101.6	101.7	101.8		
	三重	98.5	98.9	98.6	97.8		98.0	98.1	97.4	98.5		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.5	1.6	1.6	1.6		1.63	1.59	1.60	1.61	1.63	
	岐阜(季節調整値、倍)	1.5	1.6	1.6	1.7		1.70	1.66	1.68	1.77	1.80	
三重(季節調整値、倍)	1.3	1.3	1.3	1.3		1.33	1.35	1.35	1.39	1.41		
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	2.3	2.3	2.4	2.5		2.63	2.38	2.45	2.54	2.58		
岐阜(季節調整値、倍)	2.1	2.2	2.3	2.4		2.53	2.22	2.44	2.54	2.64		
三重(季節調整値、倍)	1.9	1.8	1.9	2.0		2.02	1.93	1.97	2.16	2.04		
賃金	現金給与総額	0.3	1.1	1.0	0.6		0.4	-0.8	2.2	-0.2		
	所定内給与	0.6	-0.7	-0.6	-0.5		-0.5	-0.9	-0.2	-1.0		
	所定外給与	3.3	4.1	4.5	-0.7		-1.0	-1.1	0.0	-0.5		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	7.3	7.2	-9.7	-10.6		-13.4	-10.5	-7.8	-3.0	-7.6	
定期収入	7.3	7.2	-9.7	-10.6		-12.0	-11.7	-10.7	-10.5	-5.6		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	2.2	-7.3	-6.5	-3.6		-3.4	2.6	-8.4	12.2	6.2	
	百貨店販売額(名古屋市内)	8.3	15.0	3.1	-2.0	-0.8	-1.8	-1.9	-2.3	-3.8	-5.7	-2.8
	百貨店+スーパー販売額	5.7	-3.7	-4.6	-2.4		-0.2	1.6	-0.3	-1.0	-3.1	
	コンビニエンスストア販売額	6.9	5.2	4.6	4.5		3.9	6.9	2.8	3.2	1.8	
	新車登録台数(含む軽)	-5.4	-7.6	-8.6	-6.9		-3.6	-8.9	-7.5	5.3	-0.7	-6.4
	家電大型専門店販売額	1.8	4.3	-0.6	-0.6		6.8	1.4	-8.3	1.5	-2.1	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	42.6	42.7	41.6	41.4	40.9	42.2	40.2	41.8	40.6	40.7	41.5
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	25.9	26.7	27.9	25.2	25.6	25.9	21.6	28.0	21.4	27.0	28.2	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済、千戸)	106.2	106.8	99.1	106.9		98.2	110.4	112.0	106.1	109.0	
	(前年比、%)	3.5	9.6	3.6	5.6		-2.9	12.2	7.8	2.6	0.9	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	2.3	13.9	8.9	2.7							
	(非製造業)	13.9	26.7	11.2	-3.1							
企業立地件数	-	-	-	-	-	14	23		11			
公共投資	公共工事請負額	-1.5	-6.3	0.7	7.3	-10.4	-12.2	11.5	15.9	-8.4	-15.0	-10.3
輸出入	実質輸出(季節調整済、2010年=100)	107.6	109.0	115.3	112.0		116.3	109.2	110.6	107.5	108.2	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	4.5	2.2	-0.5	-6.9	-8.4	-9.2	-5.4	-6.3	-10.7	-7.4	-6.9
	実質輸入(季節調整済、2010年=100)	117.2	119.3	118.4	116.9		118.5	115.9	116.3	109.2	117.1	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	-5.6	-7.0	-11.8	-17.2	-19.1	-17.9	-20.0	-13.5	-26.1	-9.5	-20.6
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	0.1	-0.1	-0.1	-0.1		0.0	0.0	-0.4	-0.5	-0.6	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	0.5	0.8	0.8	0.7		0.8	0.8	0.6	0.7	0.7	
金融	国内銀行預金残高	3.6	3.4	2.9	2.7		2.5	2.5	3.2	4.0	2.7	
	国内銀行貸出残高	2.5	2.0	2.1	1.6		2.5	1.3	1.1	1.4	1.4	
倒産	倒産件数	-8.1	3.8	-21.8	-5.5	-11.1	-8.2	-1.8	-6.4	-17.6	-15.9	-1.3

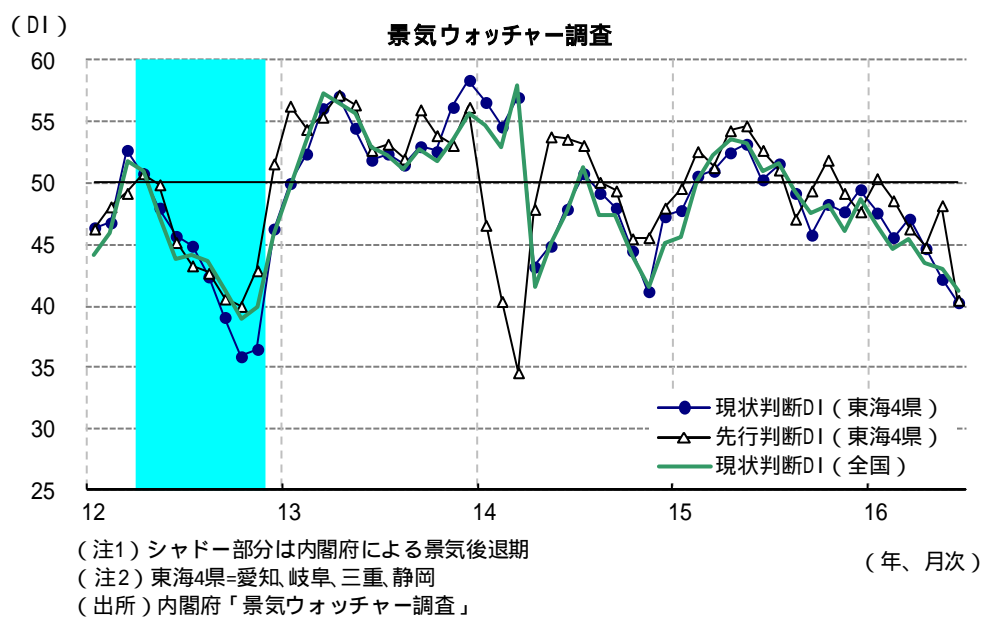
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

## 1. 景気全般 ~横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

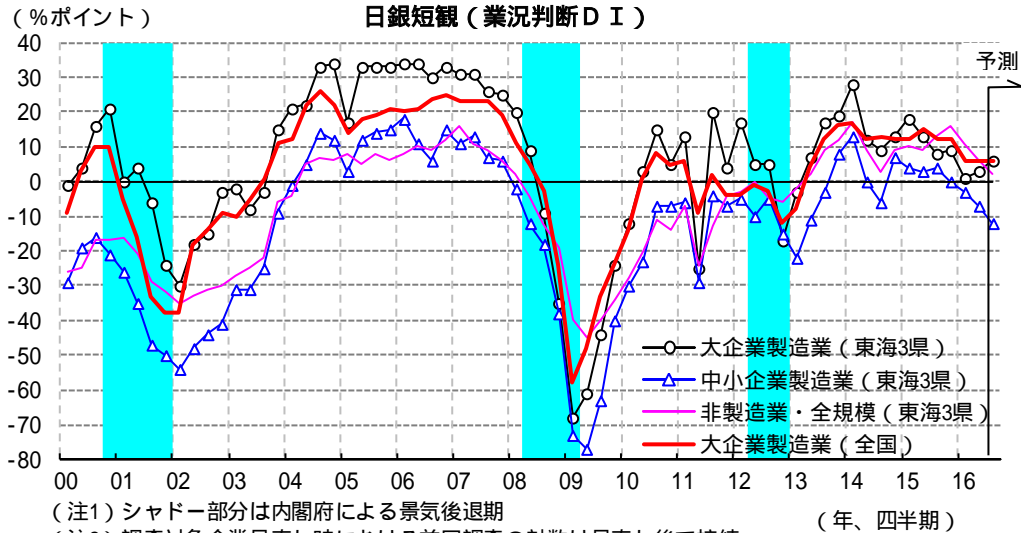
4月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち7系列がマイナス寄与となり前月差 - 1.9ポイントと2ヶ月ぶりに低下、三重県も同 - 5.0%と2ヶ月ぶりに低下した。一方、岐阜県は同 + 2.9ポイントと2ヶ月連続で上昇した。先行指数は、愛知県は2ヶ月ぶりに低下、岐阜県、三重県はいずれも2ヶ月連続で上昇した。



6月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断D Iが40.3と3ヶ月連続で低下し(前月差 - 1.9)、景気の横ばいを示す50を11ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断D Iも39.3と3ヶ月連続で低下(前月差 - 2.3)し、11ヶ月連続で50を下回った。先行き判断D Iは、英国のEU離脱問題の影響で円高・株安が急速に進んだこともあり、同 - 7.7ポイントの40.5と大幅に低下、50を5ヶ月連続で下回った。

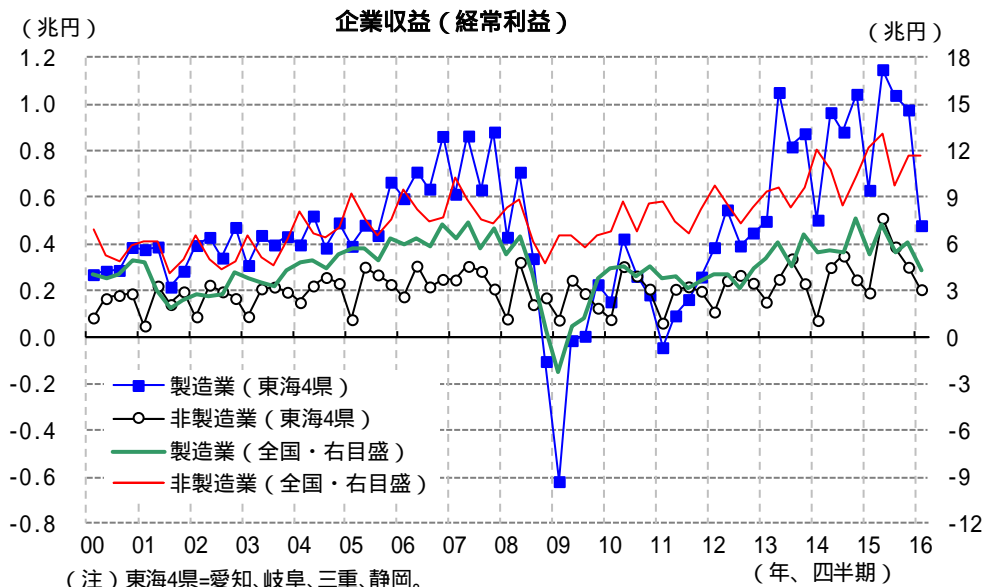


日銀短観6月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+3と、前回3月調査から2ポイント上昇、中小企業製造業は-7と4ポイント低下、非製造業[全規模]は、5ポイント低下の+6となった。業況判断D Iの9月予測は、大企業製造業は+6と改善が見込まれるが、中小企業製造業(-12)と非製造業[全規模](+2)はいずれも6月に比べて悪化が見込まれている。



(注1) シャドウ部分は内閣府による景気後退期  
 (注2) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。  
 (注3) 東海3県=愛知、岐阜、三重。  
 (出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

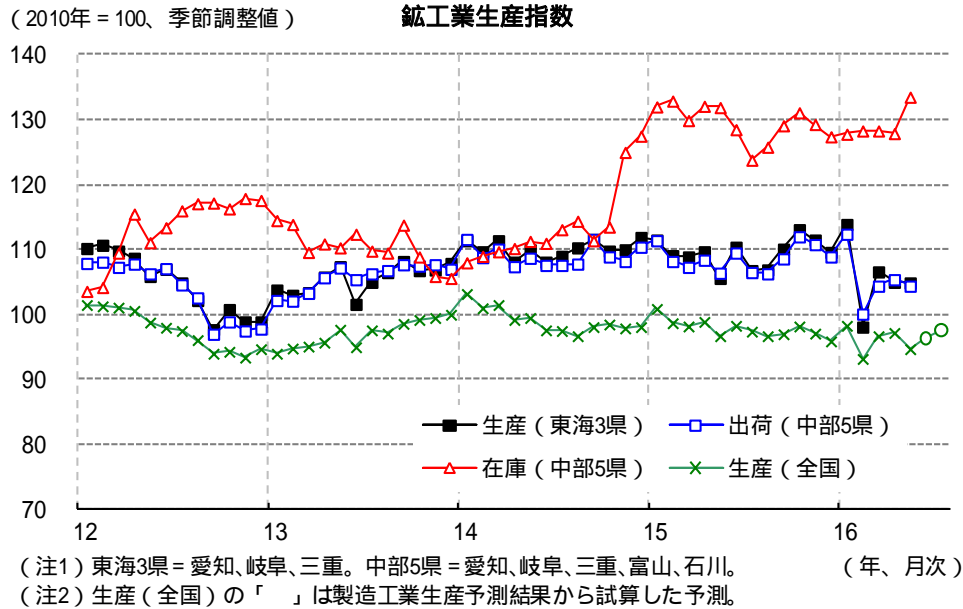
2016年1~3月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で-16.7%と2四半期連続で減少した。非製造業は同+7.4%と8四半期連続で増加したが、製造業は同-24.0%と2四半期連続で減少した。日銀短観6月調査では、東海3県の15年度の経常利益(全産業)は同+11.3%と増益となった。16年度は、全産業が同-25.9%、製造業が同-29.5%、非製造業が同-15.6%と、いずれも大幅減を見込んでいる。



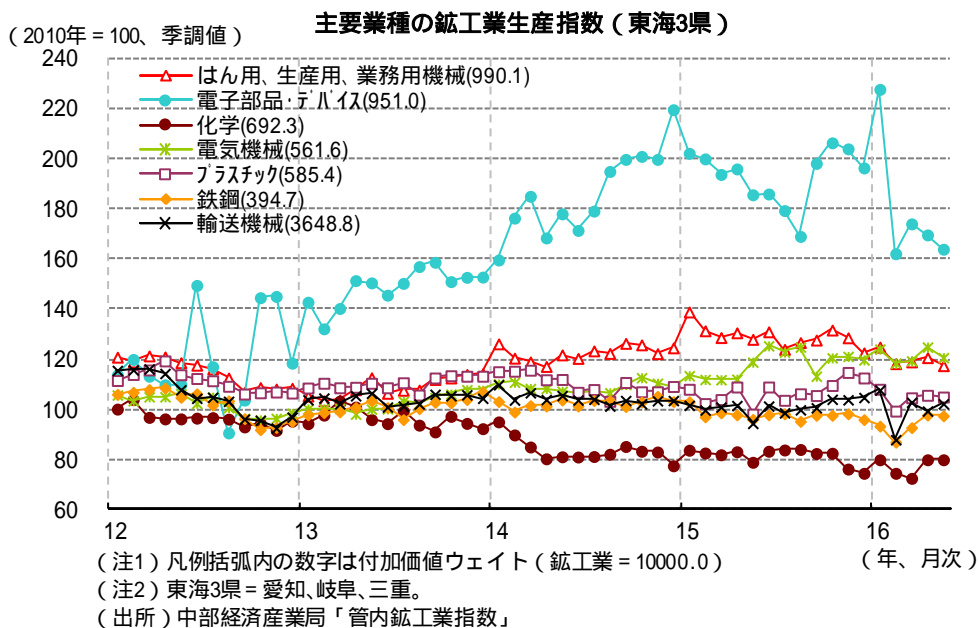
(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。  
 (出所) 財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

## 2. 生産 ~弱含んでいる

5月の東海3県の鉱工業生産指数は、減産が懸念された輸送機械は増加したが、電子部品・デバイスなどが減少し、全体で前月比 - 0.1%となった。東海の実績は、均してみると弱含んでいる。6月以降は自動車関連において工場爆発事故や熊本地震による減産分の挽回生産が見込まれるが、電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械などの生産は低調であり、東海の実績の先行きは、均してみると横ばい圏の推移となろう。

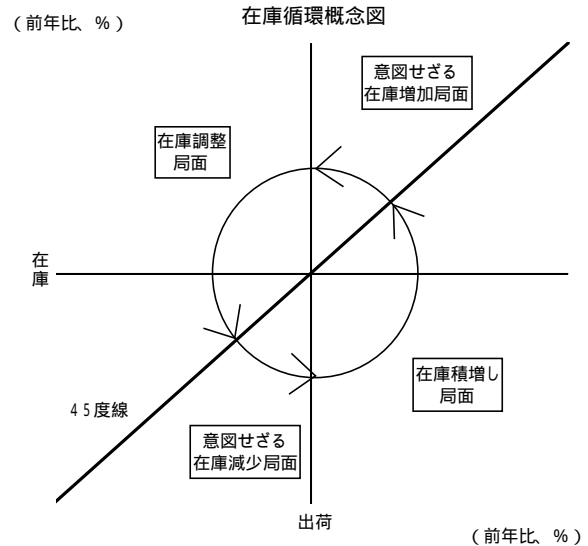
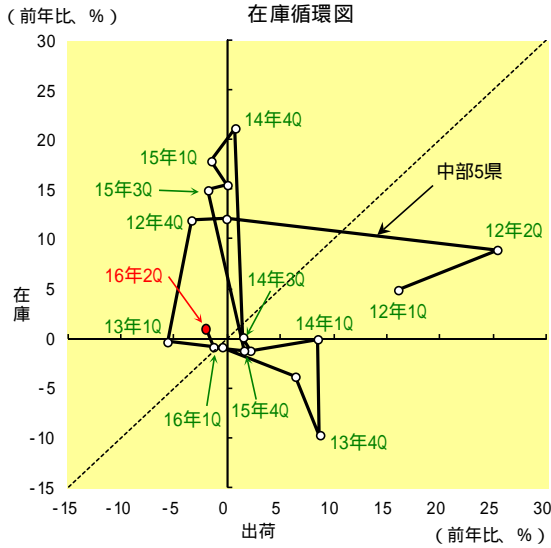


業種別では、輸送機械(前月比 + 2.9%)が2ヶ月ぶりに増加したが、電子部品・デバイス(同 - 3.4%)は2ヶ月連続で減少、はん用・生産用・業務用機械(同 - 2.7%)、電気機械(同 - 3.4%)、鉄鋼業(同 - 0.3%)は3ヶ月ぶりに減少した。



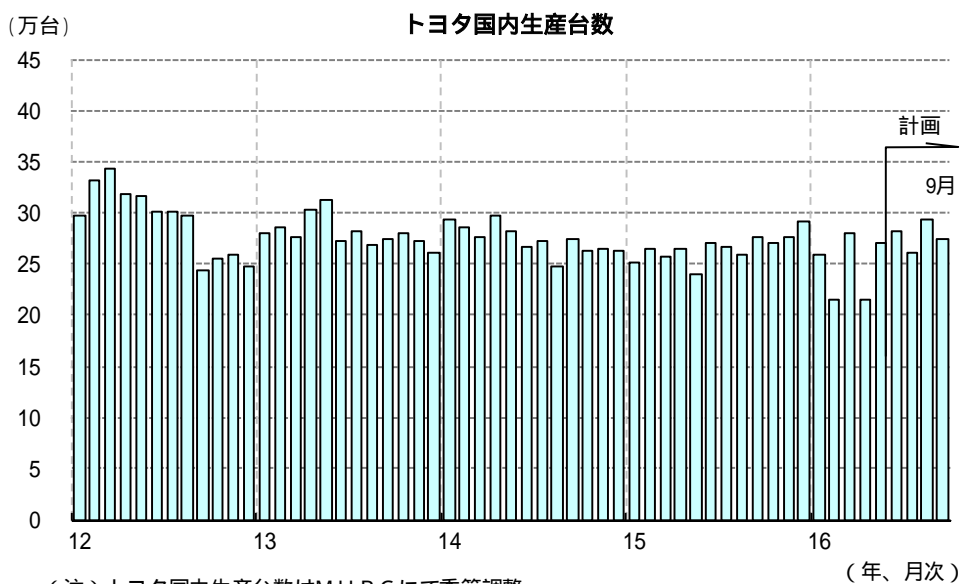


5月の中部5県の出荷は、前月比 - 0.9%と3ヶ月ぶりに減少した。輸送機械(前月比 + 2.6%)は増加したが、電子部品・デバイス(同 - 6.6%)、はん用・生産用・業務用機械(同 - 3.2%)などは減少した。在庫は、同 + 4.4%と3ヶ月ぶりに増加した。はん用・生産用・業務用機械(同 - 2.2%)などが減少したが、電気機械(同 + 24.8%)、電子部品・デバイス(同 + 11.9%)などが増加した。



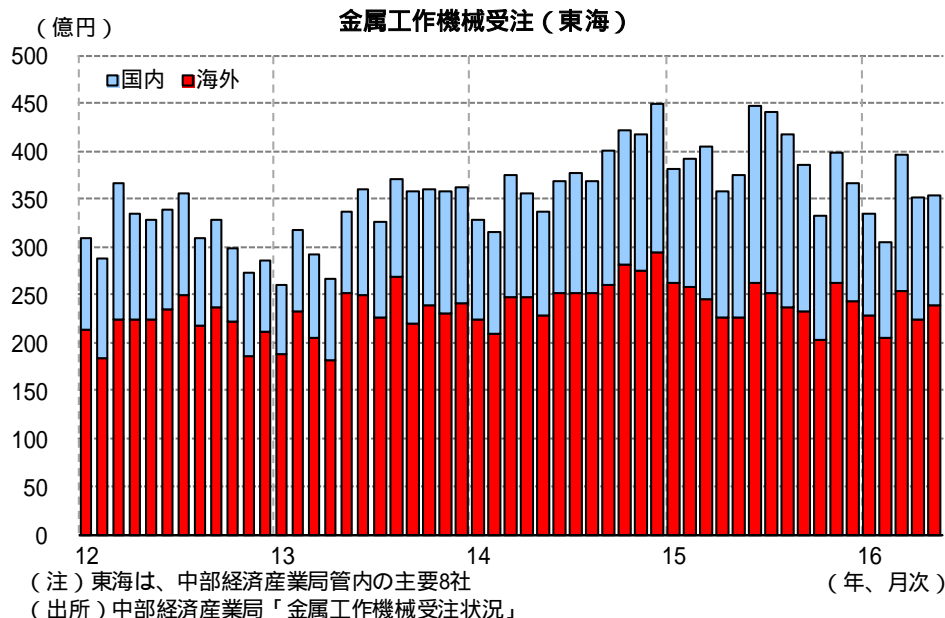
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値  
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。  
 (注3) 直近16年2Qの出荷は4、5月平均、在庫は5月の前年比  
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(16年7~9月)の国内日当たり生産台数は1万3千台後半の水準で推移する見込みである。1月の愛知製鋼工場爆発事故、4月の熊本地震、5月のアドヴィックス刈谷工場の爆発事故などによる減産分を6月以降の生産に振り向けている。受注が好調な新型ハイブリッド車を中心に挽回生産に入ると見られ、当面は高めの生産が続くと見込まれる。



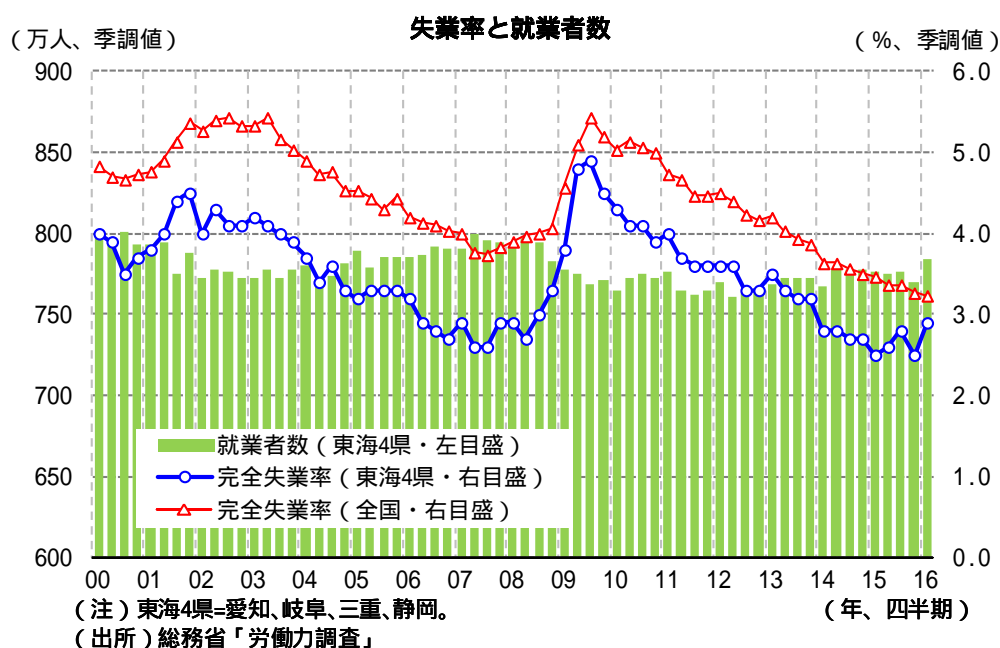
(注) トヨタ国内生産台数はMURCにて季節調整。  
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

5月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比 - 6.0%と9ヶ月連続で減少した。海外受注(同 + 5.9%)は2ヶ月ぶりに増加したが、国内受注(同 - 24.2%)が8ヶ月連続で減少した。地域別では、米国向け、欧州向けがともに2ヶ月連続で減少し、アジア(含む中国)向けが11ヶ月連続で減少したが、メキシコ(同 + 868.3%)が大幅増となった。



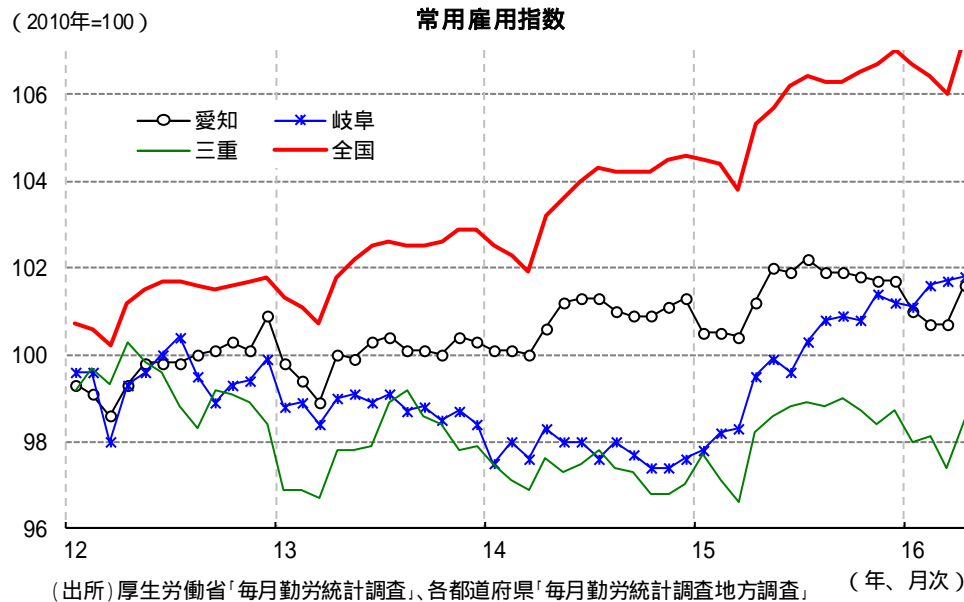
### 3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

2016年1~3月期の東海4県の完全失業率は2.9%(前期差+0.4%ポイント)と上昇したが、全国(3.2%)に比べて低い水準で推移している。同時期の就業者数は同14万人の増加、完全失業者は同2万人の増加となった。東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い状態が続いている。有効求人倍率は高水準で横ばい圏で推移している。

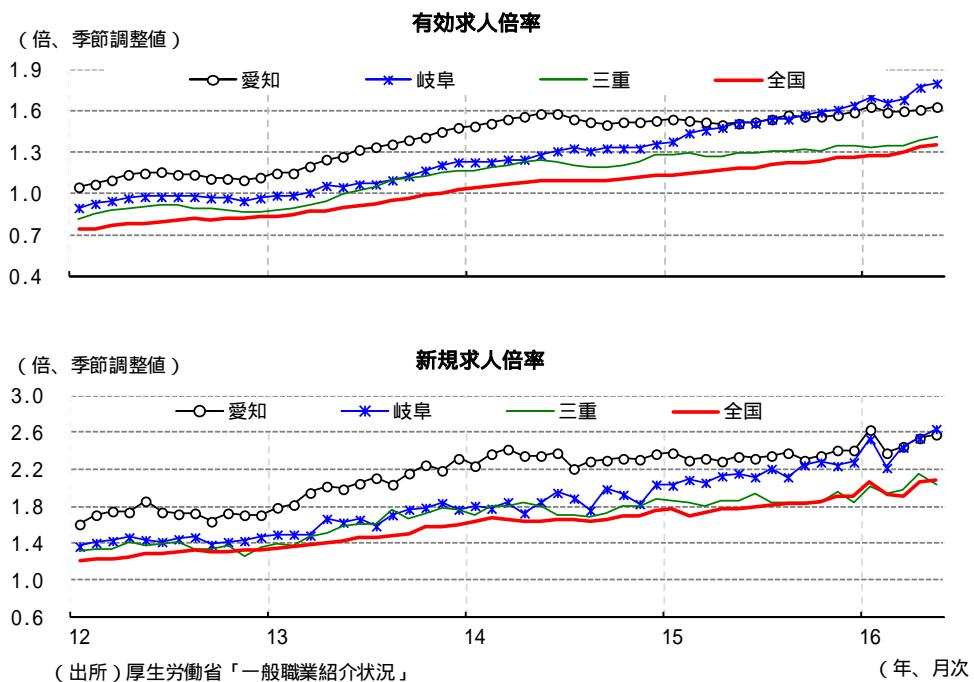




4月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.4%と28ヶ月連続、岐阜県は同+2.3%と16ヶ月連続、三重県は同+0.3%と13ヶ月連続でいずれも上昇した。東海3県の常用雇用指数は、岐阜県を除き全国(同+2.0%)に比べて弱い状態が続いている。

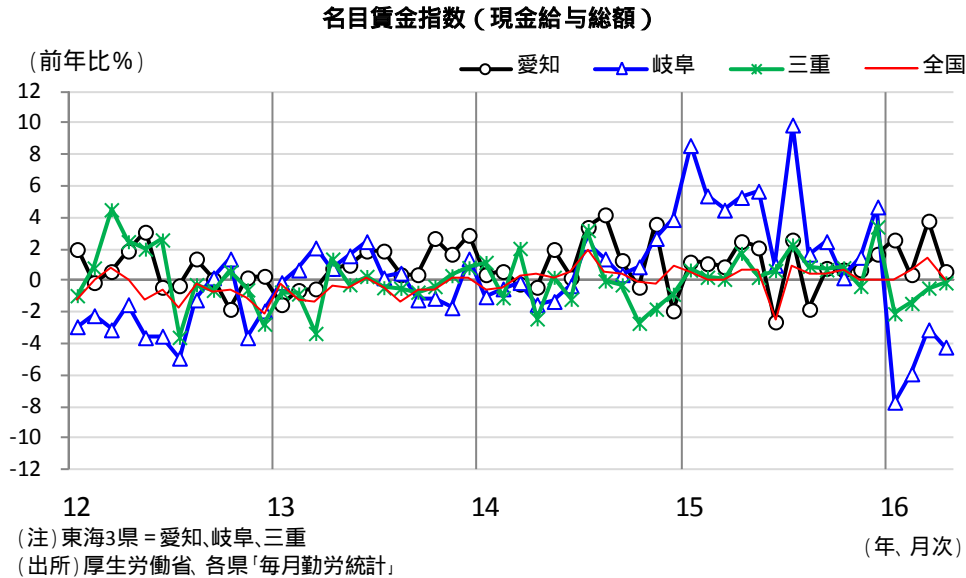


5月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が1.63倍と前月(1.61倍)を3ヶ月連続で上回った。岐阜県も1.80倍(前月1.77倍)と3ヶ月連続、三重県は1.41倍(前月1.39倍)と2ヶ月連続で前月を上回った。新規求人倍率(同)については、愛知県(2.58倍)、岐阜県(2.64倍)はともに3ヶ月連続で上昇したが、三重県(2.04倍)は3ヶ月ぶりに低下した。

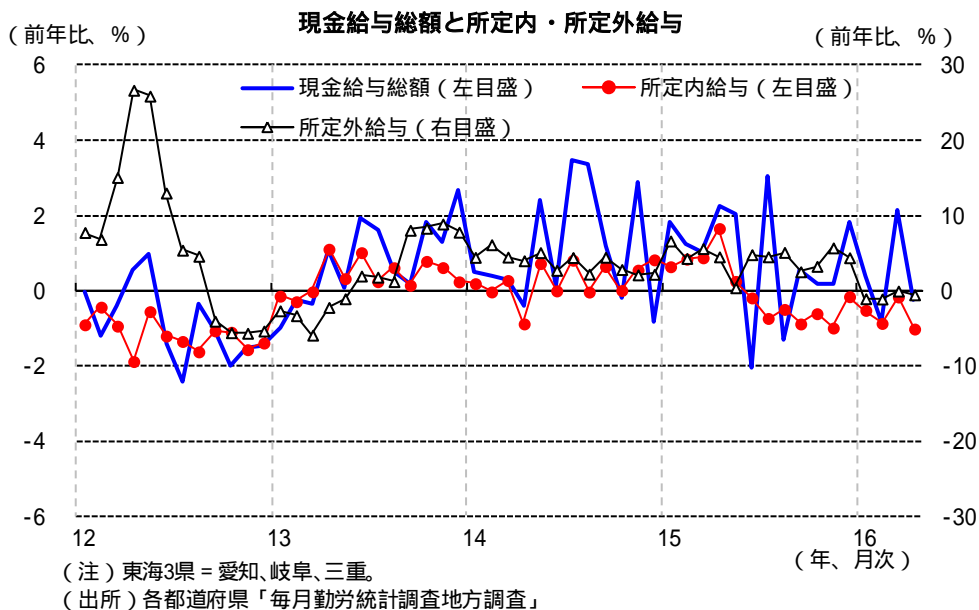


#### 4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している

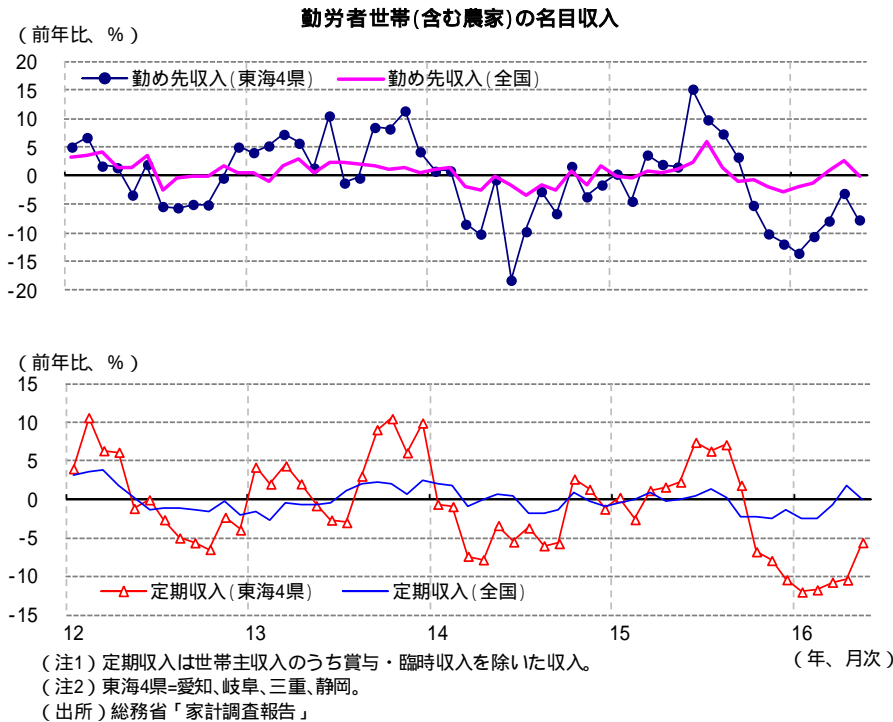
東海3県の4月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、愛知県は前年比+0.6%と8ヶ月連続で増加したが、岐阜県は同-4.2%、三重県は同-0.1%といずれも4ヶ月連続で減少した。東海3県の賃金は月毎の変動が大きい、均してみると横ばい圏で推移している。今後については、自動車の挽回生産もあって、持ち直しが見込まれる。



東海3県の4月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比-0.2%と2ヶ月ぶりに減少した。内訳をみると、所定内給与は同-1.0%と11ヶ月連続で減少し、所定外給与は同-0.5%と4ヶ月連続で減少した。

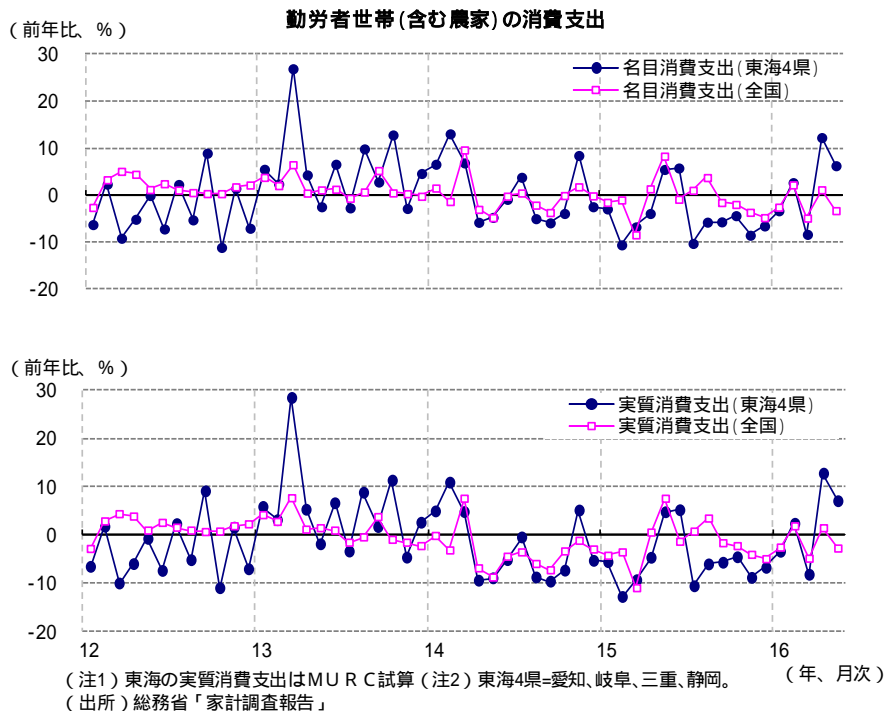


家計調査によると、5月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比 - 7.6%と8ヶ月連続で減少した。また、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）も前年比 - 5.6%と8ヶ月連続で減少した。

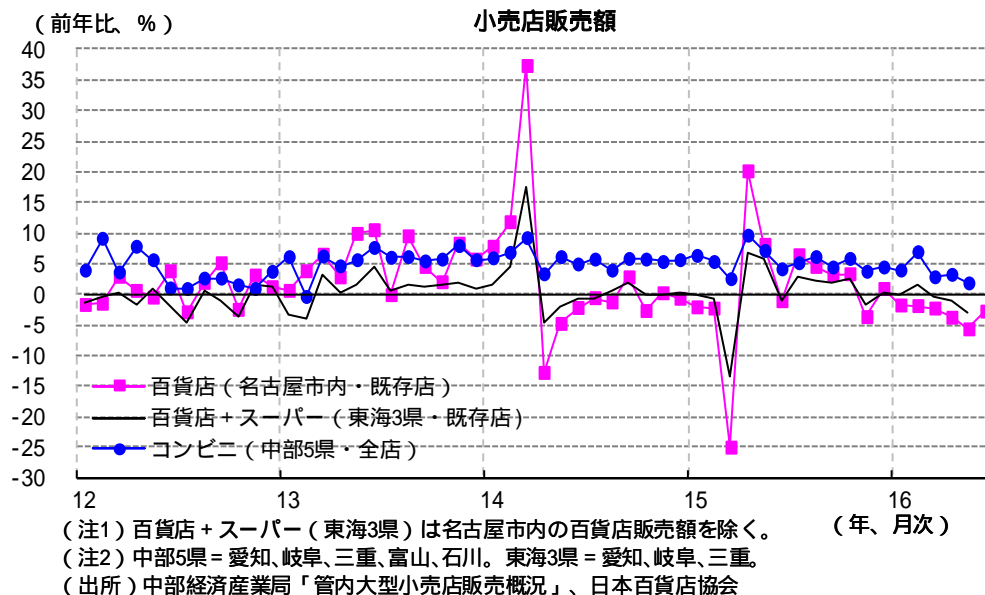


## 5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

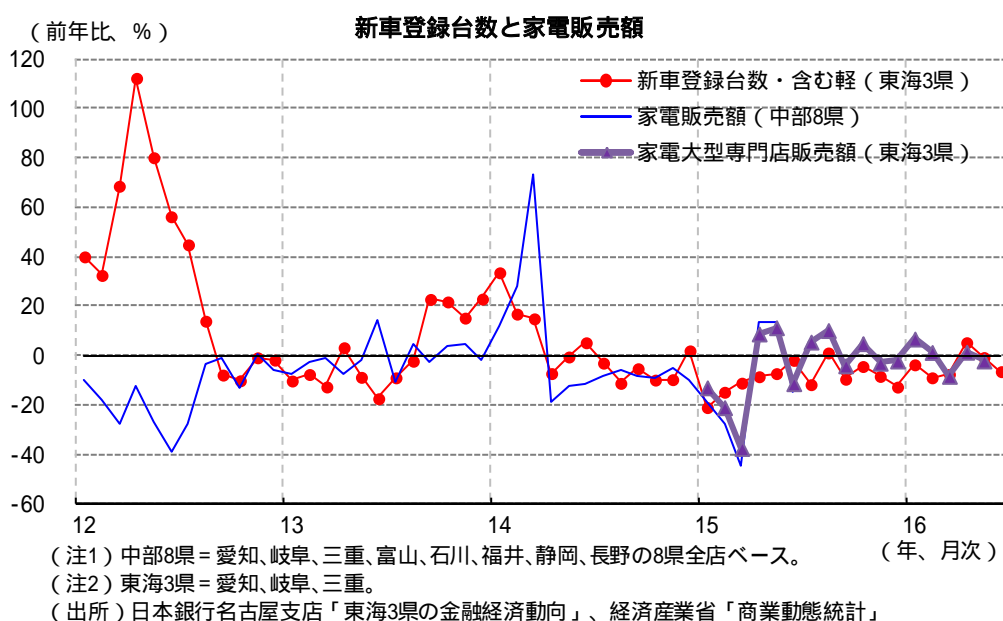
5月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目で前年比 + 6.2%、実質で同 + 7.0%と、いずれも2ヶ月連続で増加した。個人消費は、他の消費関連の指標も合わせてみると総じて横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



5月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は前年比-3.1%と3ヶ月連続で減少した。一方、5月の中部5県のコンビニ販売額(全店)は同+1.8%と増加が続いた。6月の名古屋市内の百貨店販売額は、主力の婦人服や時計・宝飾品など高額商品の不振、訪日外国人向け免税品販売の伸び悩みなどから、同-2.8%と6ヶ月連続で減少した。

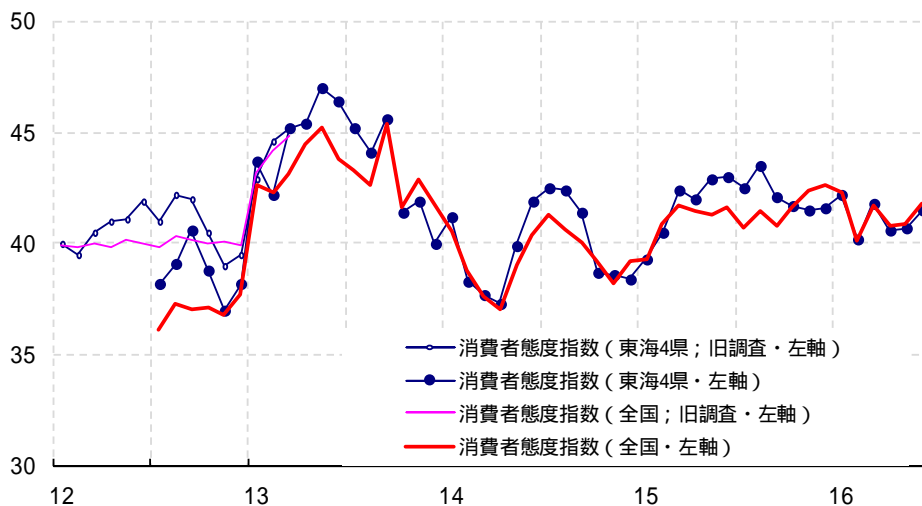


6月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、車体課税見直しの影響により軽自動車販売は引き続き落ち込みが続いている中で、小型乗用車も先月に続き減少し、全体で前年比-6.4%と2ヶ月連続で減少した。また、5月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同-2.1%と2ヶ月ぶりに減少した。



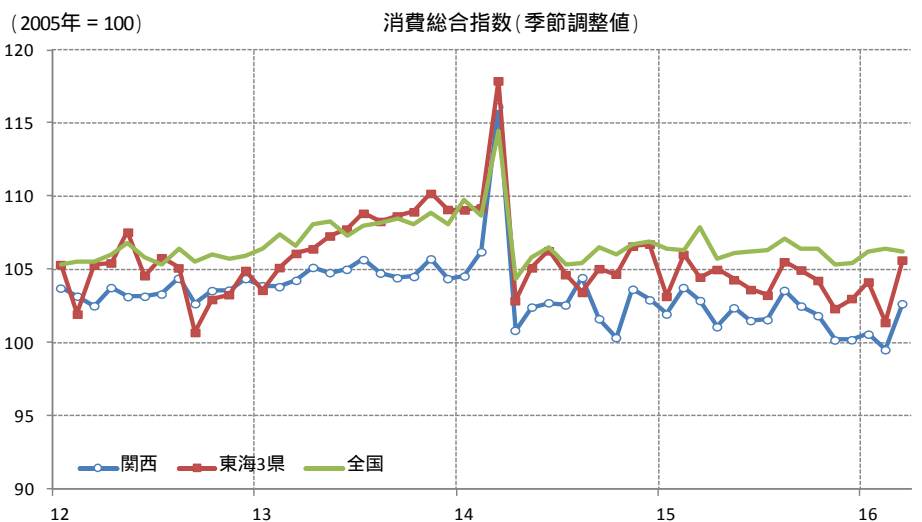
消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、6月は前月差+0.8ポイントと2ヶ月連続で上昇した(調査時点は英国EU離脱是非を問う国民投票実施前の6月15日)。消費者マインドは、実質所得の落ち着きにより横ばい圏で推移してきたが、景気の先行きに対する不透明感からこのところ基調としては弱含んでいる。今後については、内外景気の先行き不透明感が続くものの、横ばい圏での推移が見込まれる。

消費者態度指数(一般世帯、原数値)



(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。  
 (注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。  
 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。  
 郵送調査の2012年7月~2013年3月は試験調査による参考値。  
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

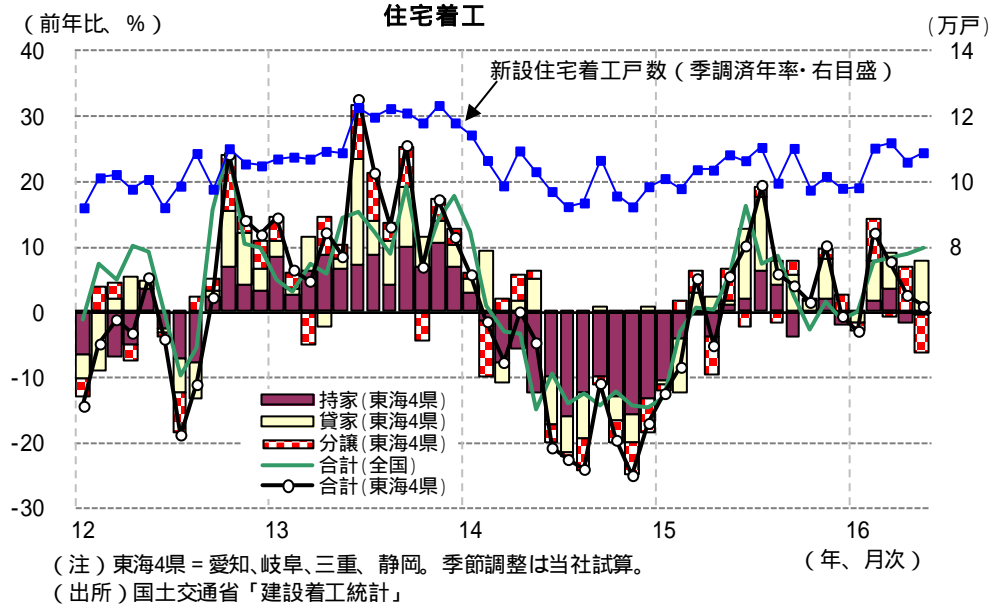
内閣府が5月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移している。



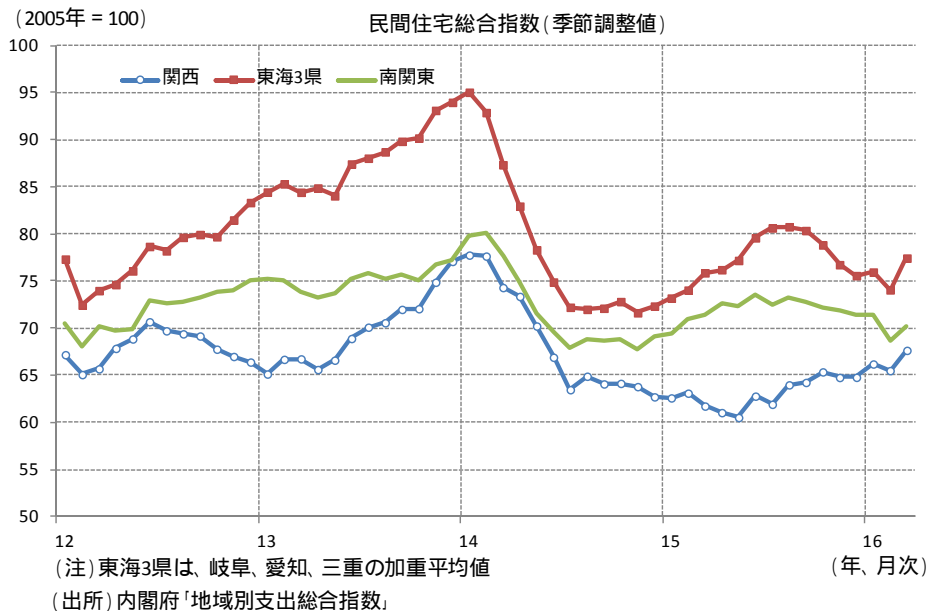
(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値  
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

5月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+2.7%と2ヶ月ぶりに増加したが、基調としては横ばい圏で推移している。前年比では+0.9%(8,490戸)と4ヶ月連続で増加した。利用関係別の寄与度は、持家が2ヶ月連続で、分譲は2ヶ月ぶりにマイナス寄与となったが、貸家は2ヶ月ぶりにプラス寄与となった。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。



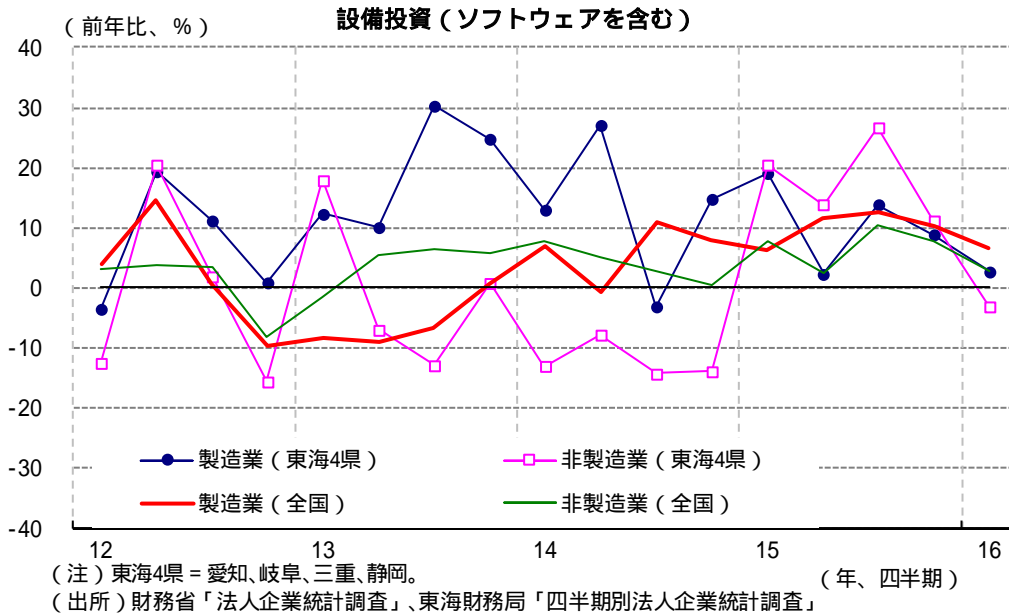
内閣府が5月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、15年8月をピークに弱い動きとなっていたが、16年になって下げ止まりの兆しが出ている。



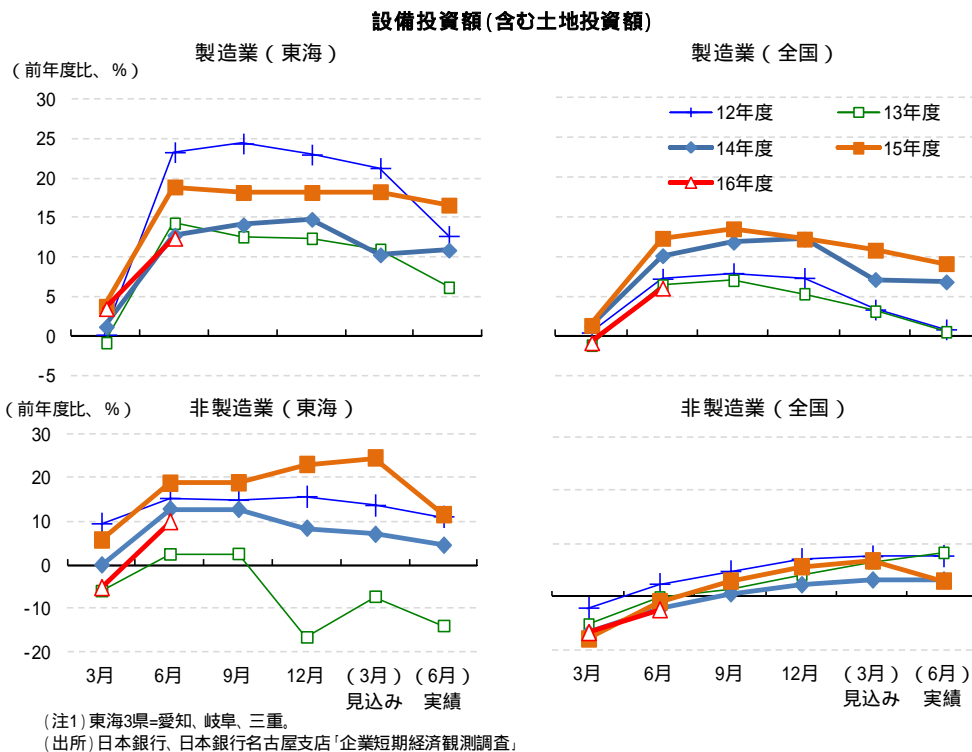


7. 設備投資 ~ 増加が一服している

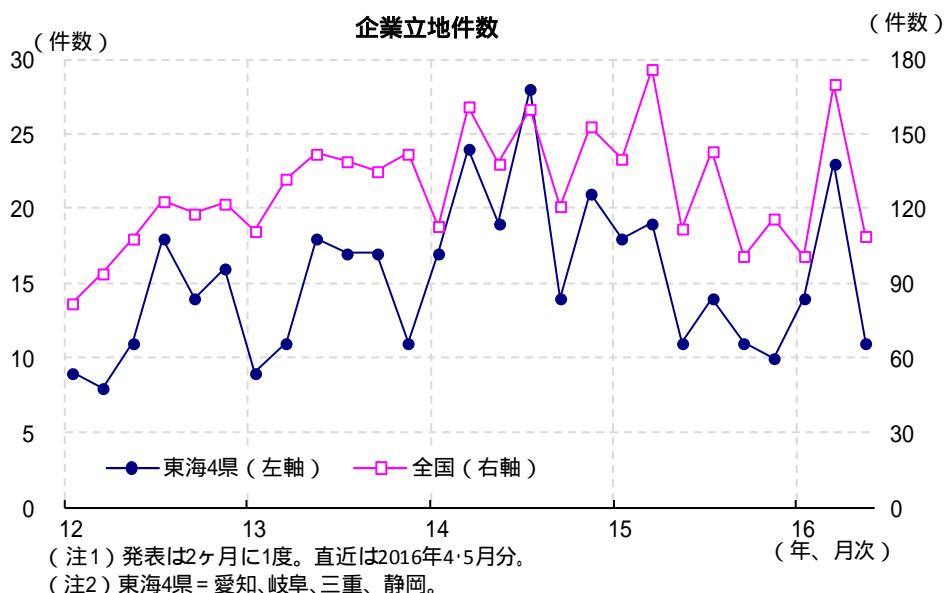
2016年1~3月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+0.1%と6四半期連続で増加したものの、ほぼ横ばいとなった。製造業が同+2.7%と6四半期連続で増加したが、非製造業は同-3.1%と5四半期ぶりに減少した。



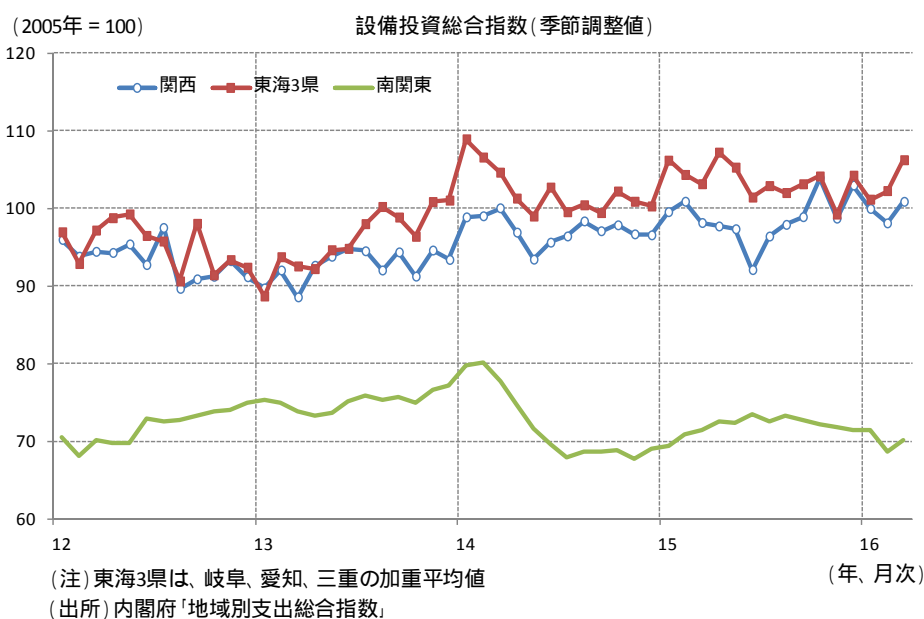
日銀短観6月調査によると、東海3県の15年度の設備投資は、全産業で前年比+14.2%、製造業で同+16.6%、非製造業で同+11.5%と増加、いずれも全国と比べても高い数字となった。16年度は、全産業で同+11.3%、製造業同+12.4%、非製造業同+9.9%と引き続き全国を上回るペースでの増加を見込んでいるが、いずれも前年6月調査時の15年度計画に比べて控えめの数字となっている。



2016年4・5月の東海4県の企業立地件数は11件と、前期(2・3月; 23件)から減少し、前年同期と同水準となった。東海地区の企業立地は全国と同様に15年度前半は減少傾向で推移していたが、15年度後半以降は下げ止まりの動きが見られる。

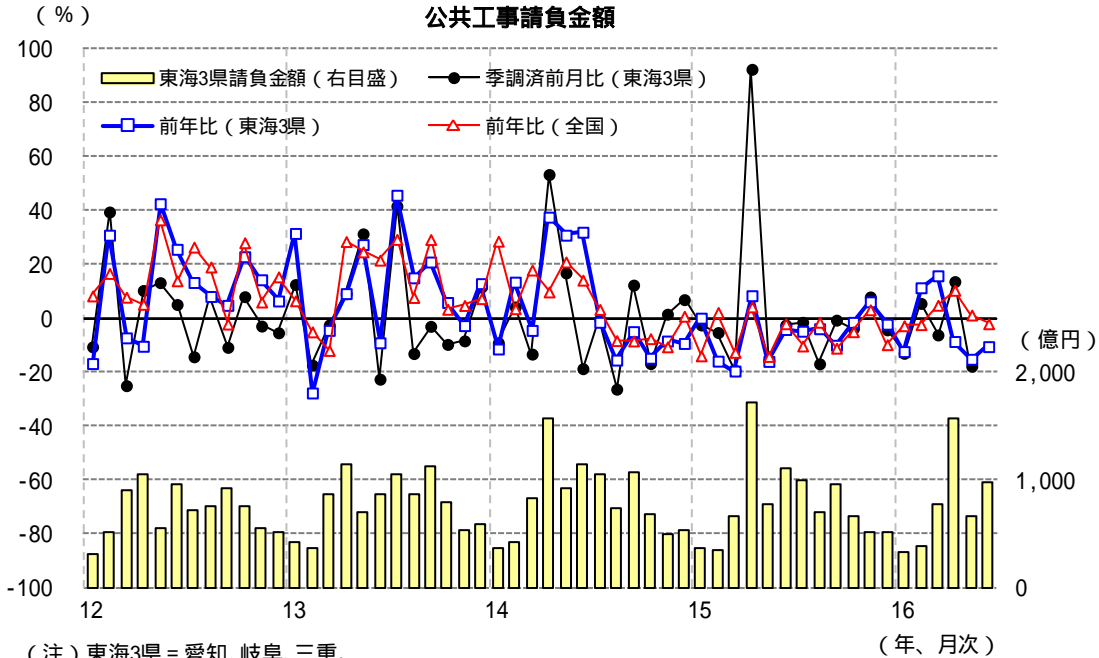


内閣府が5月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、14年以降を均してみると高水準で横ばい圏で推移している。



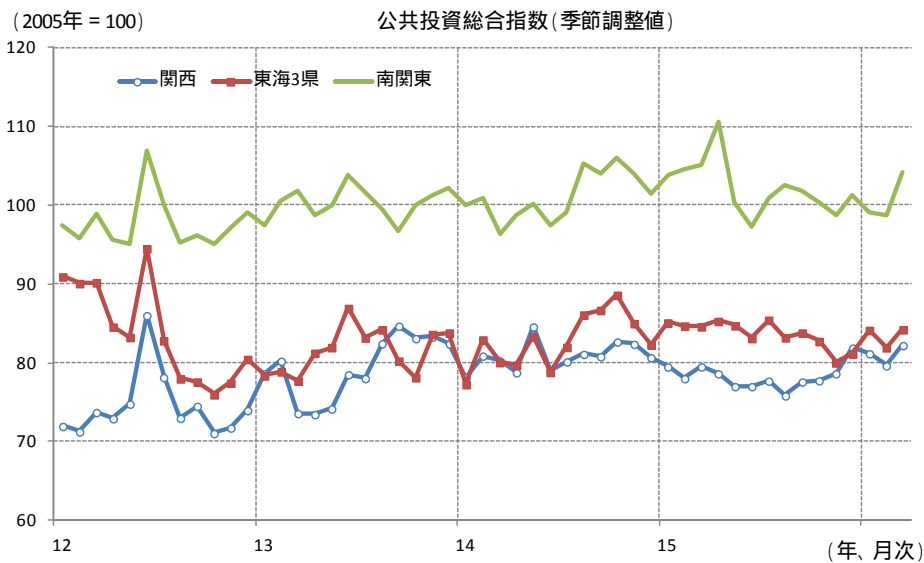
8. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移している

6月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 10.3%の989億円と3ヶ月連続で前年を下回った。発注者別では、地方は同 +6.9%と7ヶ月ぶりに増加したが、国は同 - 44.9%と2ヶ月連続で大幅に減少した。また、5月の季調済み前月比は - 17.6%と2ヶ月ぶりに減少した。公共投資は、2015年度補正予算の執行や16年度予算の前倒し執行などで一時的に増加したが、横ばい圏での推移に移行している。



(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。  
 (出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

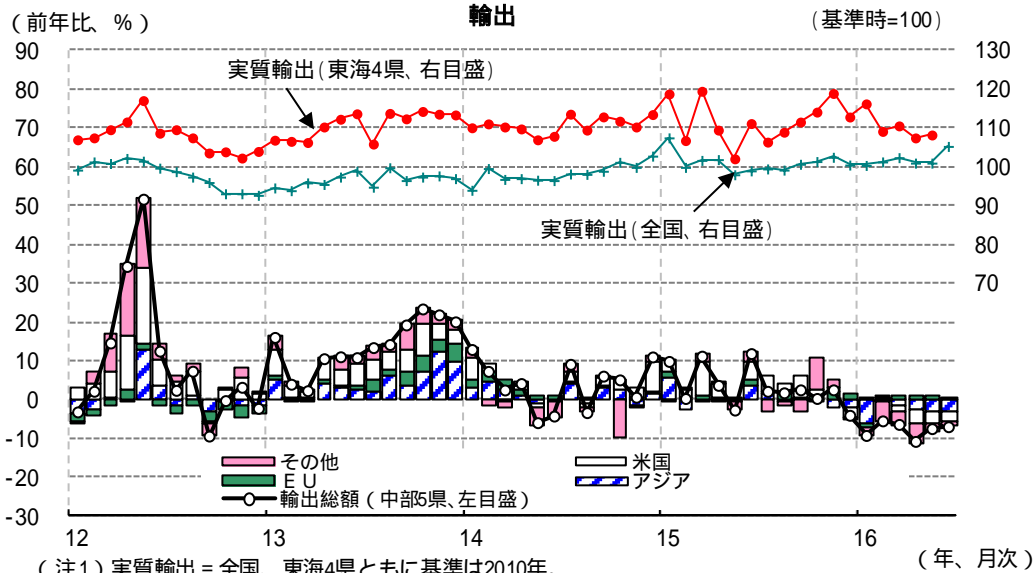
内閣府が5月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、15年は過去と比べて水準は高めながらも横ばい圏で推移している。



(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値  
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」

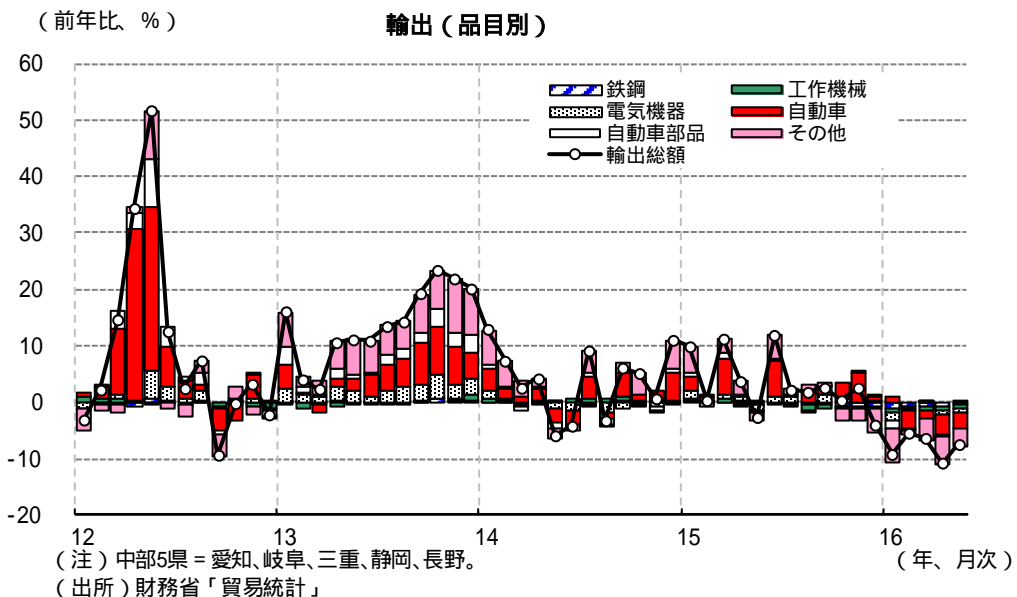
9. 輸出入 ~ 輸出、輸入ともに弱含み

5月の実質輸出(季調済)は、前月比+0.7%と2ヶ月ぶりに増加した。一方、6月の名古屋税関管内の輸出額(速報)は前年比-6.9%と7ヶ月連続で減少した。EU向けは同+1.7%と5ヶ月連続で増加したが、米国向けは同-8.4%と4ヶ月連続で、アジア向けは同-9.0%と11ヶ月連続で減少した。先行きは、新興国経済減速の影響もあって、横ばい圏での推移が見込まれる。



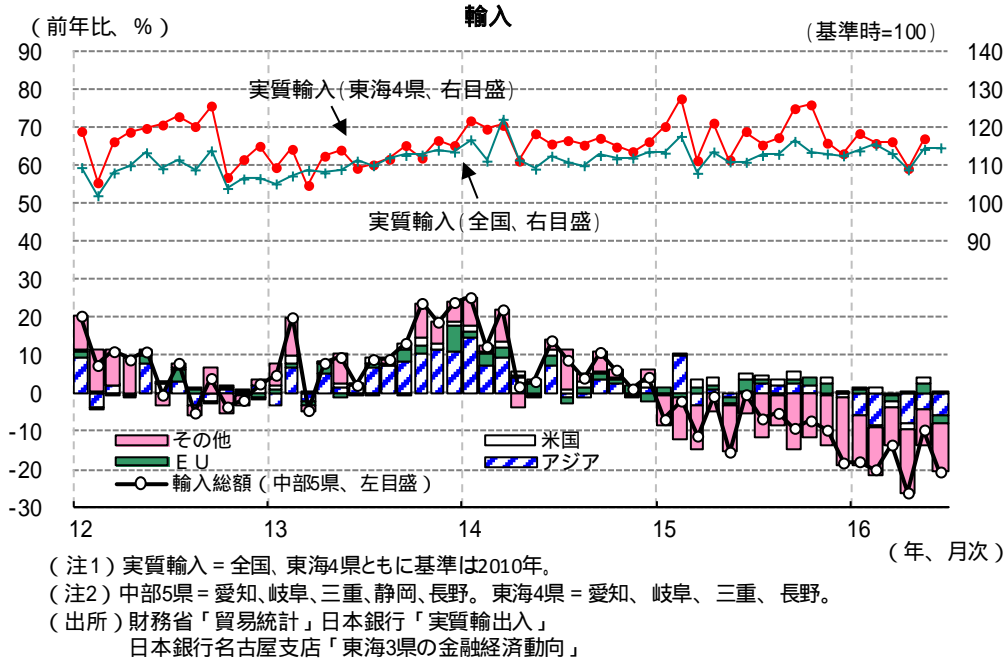
(注1) 実質輸出 = 全国、東海4県ともに基準は2010年。  
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。  
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」  
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

6月の名古屋税関管内の輸出額(速報)を品目別にみると、自動車(同-5.5%)は5ヶ月連続で減少し、工作機械(同-22.4%)は12ヶ月連続、鉄鋼(同-25.1%)は11ヶ月連続、電気機器(同-3.9%)は3ヶ月連続で減少した。また、自動車部品(前年比-0.6%)は2ヶ月ぶりに減少した。



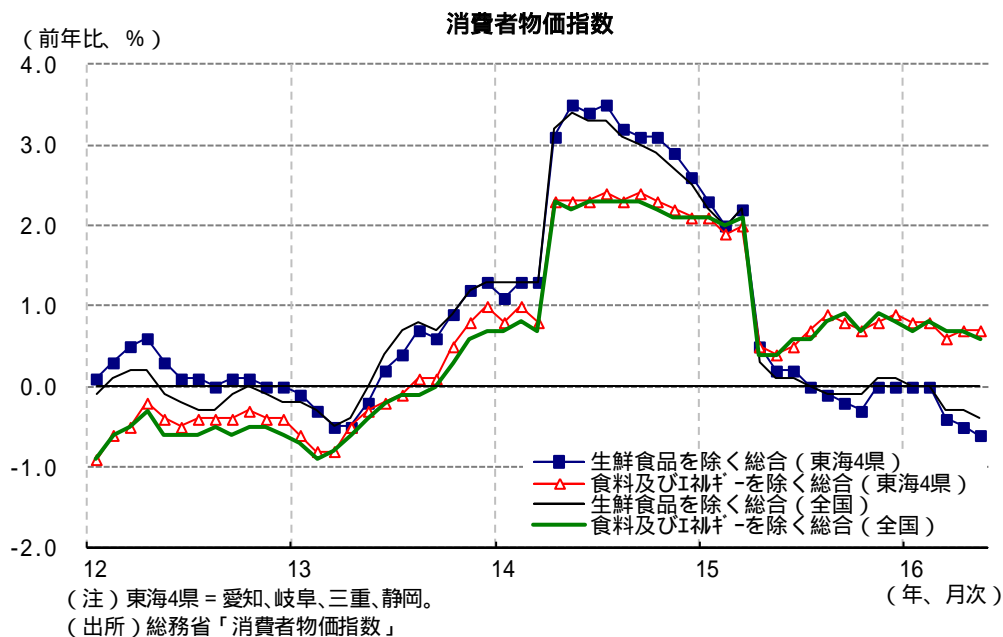
(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。  
 (出所) 財務省「貿易統計」

5月の実質輸入(季調済)は、前月比+7.2%と2ヶ月ぶりに増加した。一方、6月の名古屋税関管内の輸入額(速報)は前年比-20.6%と18ヶ月連続で減少した。品目別には、原動機が増加したが、原油及び粗油、液化天然ガス等が減少した。地域別には米国は増加したが、アジア、EU、中東等が減少した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



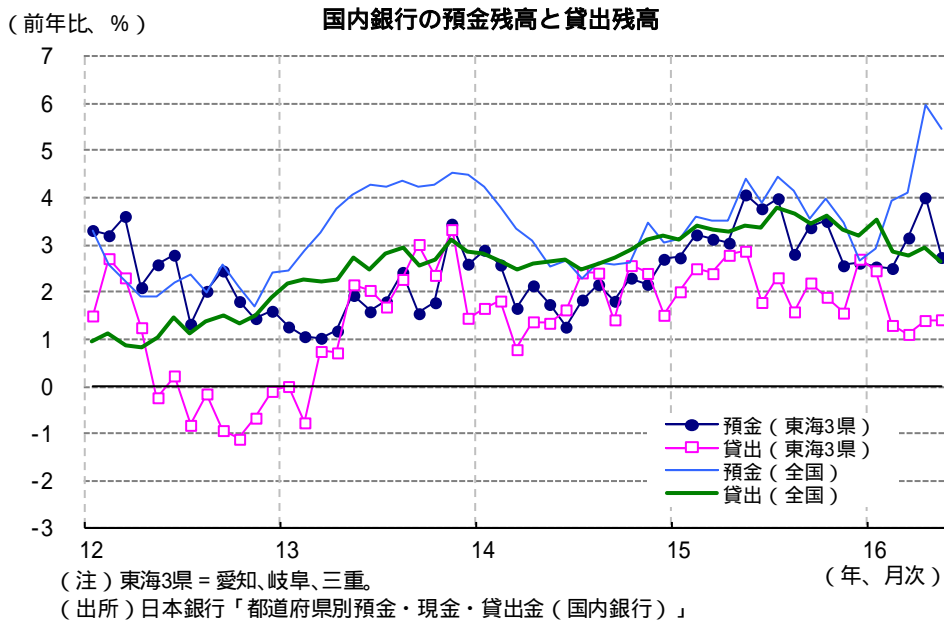
## 10. 物価 ~ 低下している

5月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比-0.6%と3ヶ月連続で低下し、低下幅が拡大している。食料品価格の上昇が続いているものの、エネルギー価格は低下している。食料・エネルギーを除く総合は同+0.7%と34ヶ月連続で上昇しているが、上昇幅は緩やかである。今後も、エネルギー価格の下落や円高による輸入物価下落が物価低下圧力として働くため、物価は低下基調で推移しよう。



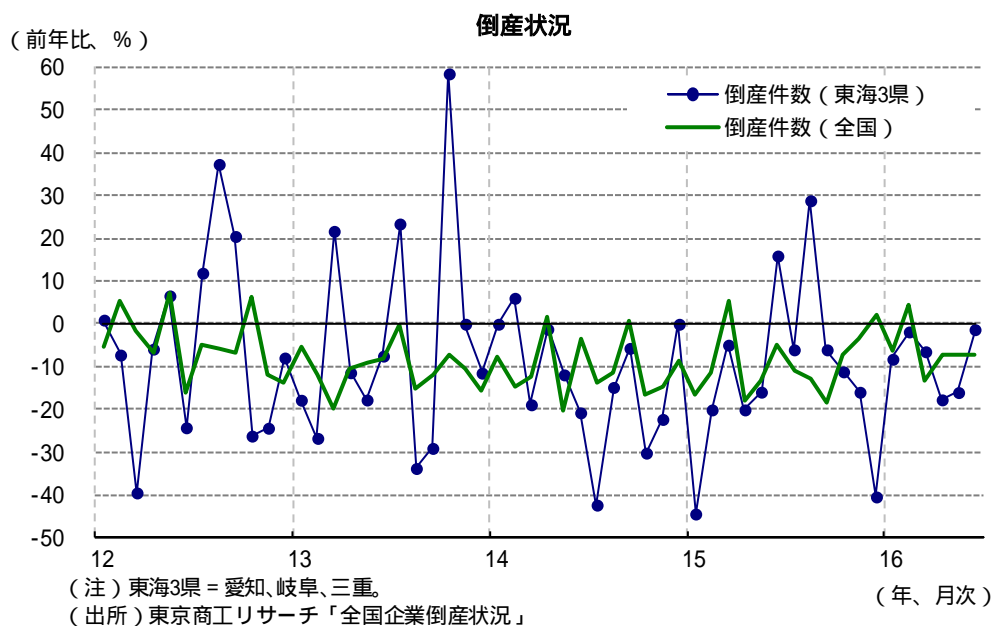
## 11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

5月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、法人預金が増加していることを主因に、前年比+2.7%と増加が続いている。貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.4%と39ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



## 12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに減少

6月の東海3県の倒産件数は前年比-1.3%の79件と10ヶ月連続で減少した。愛知県は前年比+6.7%と8ヶ月ぶりに増加し、岐阜県(同+8.3%)は2ヶ月ぶりに増加したが、三重県(同-75.0%)は3ヶ月連続で減少した。また、6月の東海3県の負債総額は、同-4.3%の120億円と3ヶ月ぶりに前年を下回った。





## 【全国及び関西地区との比較】

## 【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	全国	→		→	
	東海	→		→	輸出	東海	↘		↗
	関西	→		→	関西	→		→	
個人消費	全国	→		↗	全国	→		→	
	東海	→		→	輸入	東海	↘		→
	関西	→		→	関西	→		→	
住宅投資	全国	↗		↘	全国	↘		→	
	東海	→		→	生産	東海	↘		→
	関西	→		↘	関西	→		→	
設備投資	全国	→		↗	全国	↗		→	
	東海	→		→	雇用	東海	→		→
	関西	→		→	関西	↗		→	
公共投資	全国	→		↗	全国	↗		↗	
	東海	→		→	賃金	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	

: 晴れ     
 : 薄日     
 : 曇り     
 : 小雨     
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。  
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。  
 3. 全国は7月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

## 【各項目のヘッドライン】

項目		6月のコメント	7月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	弱含んでいる	弱含んでいる
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
4. 賃金	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	持ち直しの動きがみられる	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直している	持ち直しが一服している
7. 設備投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
8. 公共投資	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	増加が一服している	増加が一服している
9. 輸出入	全国	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している
	東海	輸出、輸入ともに弱含み	輸出、輸入ともに弱含み
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
10. 物価	全国	企業物価は下落、消費者物価は小幅下落	企業物価は下落、消費者物価は小幅下落
	東海	緩やかに低下	低下している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加

(注) シェード部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

## 「グラフで見る東海経済」の見方

### 【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

### 【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

### (注)

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

### 【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

### 【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

### 【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

### 【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

### 【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

### 【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

#### - ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。